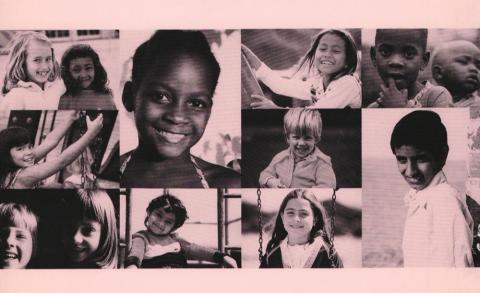
MRAEM
出逢

No.4



国際MRA 日本協会



出逢门

No.4

目 次

MRA精神で貫いた国鉄生活 瀧山 養……1P

自分の殻を破って 高橋千恵……8P

声なき民のために 五十嵐 勉……16 P

子供たちの結婚と民族の伝統の 蔡 魔貞……22 P 板挟みの中で

私たちの世代が伝えなければな 宮崎美江子……29 P らないこと

あなたは「自由」ということを知 加藤シヅェ……33 P っていますか?

「出逢い」バックナンバーのご案内

人は様々な形でMRAと出逢い、その体験も各人各様です。決して一つの決まったモデルがあるわけではありません。その様々な出逢いと体験を集めたMRA実践記「出逢い……MRAと私」Na.2とNa.3のご一読をお薦めします。MRAを自らの生活の中で実践することによって生じた具体的な変化や意識改革の体験が語られています。抽象論ではない活きたMRA実践記としてごく自然にMRAを理解していただけることと思います。ご家族、ご友人にもぜひお薦め下さい。ご注文はMRA事務局(電話03-3821-3737)へどうぞ。各一部300円でお頒けしております。

秋 職員六十名が職場や都市の空襲で命を捧げた。私はこの尊い犠牲を無にしてはなら 道輸送の拠点である。 田 人間は 義勇戦闘隊という名称で輸送戦線を死守したのである。終戦まで二カ月の間に、 の山 村 に疎開させていたところ、 無私の心境になる時、 八千人余りの職員の半数は 勇気が出るものである。 九州の鳥栖管理部長に発令された。 女子挺身隊と男子の学徒であっ 太平洋戦争末期 鳥 家族を 栖 は鉄



MRA精神で貫いた 国鉄生活

龍山 養たきやま おる

ないと心に誓ったのであった。

管内の職 H る共産党との闘いでもあった。 に立ち会ったり、 に泣かされた。事故が頻発し、その都度占領軍司令官から対策を迫られた。 のように現場を訪ね、できる限りの手を打った。問題の多い職場では早朝の点呼 輸送と外地 戦 は終 員に別れを惜しまれつつ、後ろ髪をひかれる思いで二年七カ月の職責を果 わ からの引き揚げ、 ったが汽車は止まらなかった。 寮にも泊まって、 人間の誠意は通じ、 韓国人の送還が重なり、 直接職員に心情を吐露した。 博多周辺に米軍の基地が設けら 不注意による事故 荒廃した施設と資材の 当局 は への 激 不信 减 私 を煽 は毎

私 は就 る。君は君の人間性を生かしてやりなさい」という温かい激励の言葉を戴いた。 運 昭 動 和三十年、 任 に熱心な監察局長の片岡義信さんに呼ばれて、「広島の局には憎 の挨拶として誠意と愛情で臨むことを宣言した。 労働紛 争が最もこじれた広島 の管理局長を拝命 した。 この時、 L みが溢 M

隣局で紫雲丸事故が発生して、

管内の小学校の修学旅行の先生と生徒

— 2 **—**

0 から 1= 1= 1, 出ると退くという戦術に警察が 真 れ、 激 本部長に就任したのは、 て警察の態度を改め、協力してピケの対処に成功した。 剣 化 事 四名亡くなった。 1= 後処 働い 闘 てく 争毎 理も円満に片付いた。 にピ n ケ隊 局内 私は全局を挙げて応援と弔問に当たり、遺族から深く MRAに熱心な木村行蔵さんだった。 が業務が の空気は明るくなった。 出動を渋るという始末だった。 を妨害し、 参加した多くの職員は、 鉄道公安官の手 しかし、 玉 国 に負えなくなり、 鉄 鉄 この時、 の威信 木村さんは 0 労働 運 口 広島 復 動 は 警察 た 年 毎

運 運 を続 転 転 事故を起こした職員が、自責 前 事 事 けると現場を表彰する規程があり、 局 故 故 職 長 防 防 制 0 時 止 から 止 0 運 麻 に処罰され 運 痺 動反対の申し入れがあった。表彰制度の規程の内容は変えられ して、 動 は 止 め そのため 休職となった二十七名の組合員 3 訳 1= の念にかられ自殺するという事例を盾に、 運転 は W 事 か 運転事故防止運動を進めていた。 な 故が発生した。 4 玉 から 鉄に オルグとし は、 定 て職 期 表彰間 間 組合から 場 無事 1= は 故 h

害を負った職員ばかりである。私は目頭が熱くなり、 名 内 0 寮生が野球を楽しんでいる。 湯 田 温 泉 に、 重症 を負 パった職 片手の無い 員 のリハ ビリの 野手、 職員の不幸を防ぐために障害 療養所があった。 両 足切断 0 捕 手とい 訪 ね ると

事 故 2 防 止 に力を入れ、 現場の規律を正し、 併せて運転事故の防止にあたることを思

年間 害事 秩 いことが目についた。 序が 場を廻ると支障物があったり、足場が悪かったり、作業環境が改善されていな 故 に七人に 回 防 復し、 止 運動を展開 减 少し、 運転事故も少なくなった。 直ちに職員の障害事故防止のための予算を重点に配布し、障 野球はできなくなったという報告を受けた。 した。 その効果はてきめんに現われ、 療養所 何よりも現場の の患者は 在

を通 結束して局長を支持するので断固対決してくれという陳情があった。組合の地方本 る。私は重大な決断を迫られた。現場長からは、広島局建て直しのチャンスだから、 突き付 止まった。 は分会と対立していて、 して拒 を行 1= 反発して、革同(急進派) 急行 職場復帰の業務命令を出したが応じないので、 否 1 したところ、 争い 列車 を避ける方針で臨んできたので、これは明らかに山 を故意に止めるという事件が起きた。着任 三つの駅で職場放棄が始まり宇部地帯 委員長は外遊中でその留守を狙った節があった。 勢力の強い宇部地区で、 処分を段階的に強 分会単独で定員要求 以来組合本部 の貨 車 猫 0 出 争議 私 とは め りが は筋 であ

b, 副 玉 馘 副 + 本社総裁 首者 鉄 総 言われ する」と言 |社長から「今回の広島鉄道管理局の措置は必ず将来に好結果をもたらすと信じ快 が迷惑をかけた地元の工場に損害を弁償し、組合を賠償で訴える案を進めたが、 裁 山陽本線の貨物列車が運休するという国鉄始まって以来の事件となった。 名を馘首するというところまで進んで、組合は動揺した。その間一週間に の数を半減することで妥協した。わたしはこの種争議 から事態収拾の厳命が下り、組合本部の革同の巨頭と二晩徹夜の交渉の結果、 たからといって、 から勝訴する自信がないと断られ、宇部興産に謝りに行ったところ、 b れ感激した。 なぜ所信を貫なかったのかとお叱りを受けた。 後日、十河総裁に顚末を報告したら、 の根本的解決策として、 副総裁

などに組合との闘争も重なり、地元とのお付き合いもあり多事他端な毎日であった。 ミーテ 間 島在勤二カ年は二度も台風に見舞われ、 判断 イングに参加していたお陰であった。 や行動に誤りが無かったのは、毎月木村さんの主催で行われたMRA 植樹祭の行幸やブルートレインの 実現

十二年の春闘は旅客列車を大幅に止めるという未曽有の闘争となった。当局は組合 に戻り、十河総裁のブレーンとして審議室長を務めることになった。昭和三

R 合は役職 握 作 H 幹 手 A 部 人がチェン 0 十八 ハウスに 道 これでいこうということで、当局 名を から身を退いて公労法 から 上演 解 通 ジすることで和解できたという筋のもので、 つって、 雇 され、 したが、 渋沢雅 + 組合は役職にとどまって反発した。 河 英さん 総裁 の精神、 と小柳委員長が の指導を受け が初 めて貫かれたのであった。 は政府をして調停、 た 同 席することになっ 二人は深く感動 その 仲裁を尊重させ、 時、 私は た。 M R 地 麻 A 主 上と小 の M 固 組 1

玉 政 鉄 治 語 裁 て赤字 は 家 通 は 河 自 崩 総 0 h 恨 p 線 壊 分が責任を負うから、 裁 3 n は の道をたどることとなった。 の建設を中止して、 を買 と言 政治家の介入を嫌 2 わ れ、 て、 新幹 それを実行したが恐れは感じなか 線 0 誰が正しいかでなく、 技術者を新幹線に充当する仕事を担当させら 1 開 業を見ることなく退陣させら 新幹線を執念をもって実現させた。 何が正しい った。 れた。 L かとい かし それ 5 M 私は + III 以 総 R 裏 方と A た。 0

素 晴らしさも体験できた。 議 小 1= H 8 原 参加 0 M した。 R A 国 自分の担当した、 玉 際 家、 会議 民 には 族 毎 宗教、 回 出 安全の問題、 席 階級 L を超越 ス イス、 海外技術協 して、 7 1 人 0 間 H 力の 0 米 魂 欧 問 財 題、 触 界

ずれもMRA精神によって支えられた。

のことを心配しておられた。国鉄は政治家と官僚と労働組合の食い物となって自壊 は荒廃している。十河総裁は亡くなるまで日本の将来を憂い、政治への不信と国鉄 してしまった。行政改革は絶対的に必要であるが、 しかしわが国の現状は、経済大国となって物質的には恵まれているが、精神的に 何よりもモラルの立て直しが急

·交通安全問題研究家、元国鉄技師長 神奈川県川崎市在住)

MRA精神が発揮されなければならない。

窓から積もった屋根の上へ出て泣き崩れました。 うなってしまうのか想像すらつきませんでした。不安と焦りに耐えかねて なパニックに陥っていました。「合格する自信がない、 うしよう…」。進学を当然のことと考えていただけに、 大学の共通 次試験を三日後に控えた深夜、 私はかつて経験したことがないよう 合格できなかったら自分はど もう時間も残っていない

二階の



自分の殼を破って

高橋千恵

所 じるようになり、 大人を心から憎みました。 た頃は無条件で可愛かったのですが、妹が学齢期に達してオール5を立て続け の人や親戚と私たちの成績の話をしないかと恐れ、あからさまに二人を比較する 学年で一、 には、三つ年下の妹がいます。幼い頃から何でも器用にこなす子で、あら 正反対でした。「お姉ちゃん、お姉ちゃん」と、どこまでも後をついてき 二番の成績をあげ始めるに従って、私は心中穏やかならぬ 時には妹を疎ましくさえ思うようになっていきました。 両 もの 親 に取 が近

将 んでした。 したかったのです。当時の私は、学歴こそが人間の価値を計る唯一のものさしだと せめて大学は名のあるところに入って、自分が人間として劣っていないことを証明 来入るだろうと思われる高校よりランクが下の高校を受けざるを得なかった私 何 い受験期とはいえ、十八才の正月には年賀状がたった三通しか来ず、「うちの娘に じて疑 か 私には時間 確固とした目的があって大学進学を目指していたわけではありません。 わず、 高校 高望みとは分かっていても、 時代の楽しい思い出はなく、 の無駄に思えました。当然友人もほとんどできませんでした。忙 クラブや生徒会の活動も、 最後まで志望校を変えようとはしませ 友人との交

は友達がいない」と父親を嘆かせたものです。

人生は失望と落胆の連続で終わるのではないかと考えるうちに、何のために生きて での年月は何だったのか、楽しかるべき十代が空しく過ぎたように、このまま私 を目前にして、その願いは叶えられそうもないことが分かってきたのです。 そん るのか分からなくなり、胸が苦しくなってきました。 な味気ない生活も大学に入るまでの辛抱と思って耐えてきたのですが、受験

とえ母に冷たくあしらわれても構わない、どうにでもなれ、そんな投げやりな気持 勢を張ることすらかなわず、私はヘナヘナとその場に座り込んでしまいました。た 下の部屋では、母がまだ起きていました。「母さん、気持が悪いの」。すでに虚

この瞬間に母が急に身近な存在に感じられました。 方が可愛いのではないかとかんぐり、両親の愛を疑うことすらあった私でしたが、 した。小さい頃から母は厳しい人だと思い込み、物心ついてからは出来のいい妹の 「バカだね、この子は。そんなに思い詰めて…」。母の反応は意外にやさしいもので

方でした。 で生き甲斐を見い出したらしいということは知っていました。 ことが嬉しかったのです。MRAに関する知識は皆無でしたが、イトコたちがそこ Aという団体 前 その夜は何年か振りに、母と並んでコタツで寝ました。「お前のイトコ二人がMR の学費 予想外の提案でしたが、 のために用意していたお金を使ってもいいよ」。こう切り出したの の研修で海外に行っているけど、お世話になってみる気はないか 母が世間体よりも私のことを案じてくれ ている は 母

さえなってきました。 は びを感じたり、 とを考えて見るのもいいかな」。そう考えると肩の力も抜け、今後の展開が楽しみに !案外ささいな出来事なのかも知れない。次の数年間で、人生で本当にやりた 私は受験で行き詰まってしまったけれど、 悩んだりしているのだろう。 外国の同年代の若者はどんなことに喜 日本では深刻に思えることも、 世 界で

たのか今でも不思議です。 だわってい 予想通り大学に落ちた私 た進学をすっきりと諦めることができ、何も知らないMRAに飛び込め は、 迷わず母の提案に従いました。どうしてあ

上京して一年間、 MRAの事務局を手伝うかたわら、 英語学校に通いMRAの海

させるのはよそう」と決心しました。 なら、私と妹の人生には違う計画をお持ちなのだ。自分と他人を比較して自ら疲れ それまでは神の存在を信じたことなどありませんでしたが、「もし神様がおられるの を持 た。それは、 修に備えました。その頃、 っておられる)」というMRAの創始者フランク・ブックマン博士の言葉でした。 「God has a plan for everyone (神様は、 私の価値観を根底から覆すような一文に出会いまし 全ての人に対して特別

る人々を目の当たりにして、私の自己憐愍は吹き飛んでしまいました。「ここに目を と思いました。 いました。日本の社会は私を必要としなかったという、心の傷が残っていたのです。 みました。それまで私には、受験の失敗からくる敗北者的な思いが依然くすぶって で生活する子供を見れば、 り靴を磨こうとします。炎天下の路上では学校に行けない子供たちが、大声 最 げて物を売っています。痩せ細った老人を見れば、長年の苦労がしのば かし、そん 初の行き先はインドでした。空港を一歩出た途端、凄いところへ来てしまった なコンプレックスなど比較にならない程の重荷を背負って懸命に生き 真夜中なのに大勢の子供たちが駆け寄ってきて、私の荷物を運んだ これから彼らを待ち受けている厳しい人生を思い心が痛 を張

L 人生と言えるかも知れない」。インドは私の目と心を広く世界に開かせてくれました。 ってはならない現実がある。たとえ自分にできることは限られていても、 n ならない。僅かでも社会に貢献する生き方ができれば、それも価 何

勧 事 私 閉 は 勿論、 めた を傷 めていたことを初めて知りました。両親は、私たちが以前のように仲の良い に先立って国 淋しい思いをしていたことを告げ、また姉の私に対して時折感じていた優越 返事がきました。妹は私たちの間に壁のようなものを感じていたが、なす術もな 海 外 ったことを大変喜んでくれました。また、 に のは両親でした。たった二人きりの娘たちが張り合っていることに親が つけ追 出 各国の友人から私宛に届き出した手紙の束に、父も安心したようです。 妹の失敗を願ったことさえあったことを詫びました。すると妹からすぐ て半年目に、 い詰めてしまったなら申し訳なかったと謝ってきました。 際電話をくれ、私に手紙の礼を言ってくれました。。電話するように 私は妹に宛てて長い手紙を書き、 MRAに出会った翌年 嫉妬ゆえに一方的 から、 妹は 年賀 その返 1= 心を 姉

の才能や活躍を素直に認め、褒めることが出来るようになったのも、 M R A の

者 n は教員になりました。 すことの出来る人たちはなんて素晴らしいのだろうと、感動すら覚えます。 の妹を持てたことをとても誇らしく思っています。 かに駆られる場合が多かったのですが、今は、 陰です。 全て神様からの贈り物であり、それらを活かして多くの人々に喜びをもたら かつての私なら、才能に恵まれた人に出会えば、 。全く別の道を歩んでいる彼女から学ぶことは多く、 スポーツや芸術の才能も優秀な頭 嫉妬 心か劣等感の 私の妹

ます。 太平洋諸国 科学者やエンジニアを対象に実施している技術研修の通訳をしたり、日本とアジア、 えざる手が少しずつ導いて下さったことに心から感謝しています。 私 は現在、四年間の海外生活で習得した英語を使って、日本政府が開発途上国の M R Aでの決意や経験が活かせていることを喜ばしく思うと同時に、 の理解を深めるための国際交流プログラムのコーディネーターをしてい 神の見

までやってこれたという自信、貧富の差をなくすために尽くしたいという人生の目 近に感じるようになり、 M RA を通じて、 志の高い真の友人を多く得ることが出来ました。 「人事を尽くして天命を待つ」生き方や神様に愛されてここ また世

標など、目に見えない、物でも計れない人生の宝を沢山頂きました。これからも大 きな視野で、いかなる状況に置かれても自分の役割を求め続けていきたいと願って

(通訳 東京都渋谷区在住)

— 15

され 餅 学や書物 に帰 た理念の下に現実 私 は すものであると考えていたが、 帰 九 0) 玉 年まで東南アジアに六年住 世 後 界 0 M 中 R に活動している方々がいるとは思ってもみなかった。 に A に参加させていただいている。 か存在しないものであり、 んでい M R Aを知って、 たが 現実の苛酷な流 15 正直に言えば、 ン 今はそれを恥 コ クの 知 人 n じてい 0 M これまでこう 前 R に常 理想は文 A を紹 1 画



声なき民のために

五十嵐 勉

び、 間 出 は 逢 喜びに与らせていただい 理 いを大切にしていきたい。 想 に 向 かって努力を重ね ている。 ていく「橋」 実行することの困難と闘い としての存在であることを、 0 つ、この有り難 改 て学

0 出 そもそも 浲 4 から きつ 私が東南アジアに六年以上も住むことになったのも、 かけであった。 あるカメラマ

が 私 まとめ も以 5 た頃であり、 一時彼は 前 て、新宿の書店で直販していた。折しもカンボジアでの虐殺の報道 人間を襲うものの残酷さを感じていた。 か ら戦 タイ・カンボジア国境で取材活動を続けており、それを一冊の写真 写真集を買いながらそのことについて質問したのが始まりだった。 争の写真集を集め、 中国 一戦線や太平洋戦争の強烈なシーンを追 が流 いな れ始

は 作りそのお金で母を学校へ行かせてくれた自分の兄のことをよく口にした。母の兄 両 親 の落胆ぶりを、 キャ され からも、戦争中のことをよく聞かされていた。特に母は、夜中までワラジを ラメルなどを一緒に包んでせっせと送り続けた。 中国 一戦線で戦死した。 深いため息をつきながら話してくれた。 母は兄が既に戦死していたことも知らずに 遺骨になって帰ってき 千

と一緒にカンボジア国境へと飛んだ。 リラ、タイ軍とが戦闘をしているところである。地雷や砲撃もあり、 ている。恐怖をも覚えたものの戦争の現実を見てみたい衝動が勝ち、 ボ ジア国境へ行ってみないか。自分の目で戦場に触れてみたら」 カメラマンとは非常に気が合い、その後も会って話していくうちに、「タイ・ タイ・カンボジア国境は、難民が溢れ出し、国境を挟んでベ 八二年二月彼 トナム軍とゲ ということに 強盗も横行

ろくに分からずにただ焼かれて骨として捨てられていく彼らを見ながら、「もし彼ら 頭 ・蓋骨が割れ、半身が炭になる、酸鼻を極める光景が私を打ちのめした。 約二 口 書くべきものがここにあると思った。 がきけたら、 一週間 の難民村滞在中に、ベトナム軍の砲弾が市場を直撃した事件に遭遇した。 何か言いたいことがあるはずだ」と思った。自分が伝えるべきも

長年助手をやっていた日本人の方に相談したところ、「うちに来なさい」と招いてく 袈裟をまとった小乗仏教の僧など、書く者にとってそれらが宝の山のように映り、 玉 |境以外でも、タイの農村の素朴さや大らかさ、新鮮な山岳民族の生活、 ジア問 題を軸 に、長期に取材することを決心した。 朝日新聞バンコク支局で 黄色い

0 n たので、 生活 が始まった。 絶好の機会と思い、 日本で準備を整え、 八四年、 再びタイに渡り海 外で

T 間、 0 た日本軍 その 現在 H やはり戦争による数奇な人生を生き抜いてきた人である。タイで生活 本 助 軍 の戦争と、 手の方は、日本軍のマレー半島上陸の際情報活動をしていた人を父親 が残していった戦争の傷跡や、逆にアジアの地で無念の思いで死 兵士のことなど、思いがけず様々な方面から絡みついてきて、 日本の過去の戦争とが自分の中で重なり合っていった。 力 して んでい に持

な ことは から アとの関 日 い。日本 本 1 精神 あっても、一対一の関係、 にほとんど伝わっていないことである。ニュースやクイズ番組で伝えら ナ 係 4 を歪 的 は物においてはアジアにも膨大な流れを作り、大きな影響を与えている やカンボジア、またビルマなどを訪れて感じたことは、その な流 めてい れはほとんど為されていない。余りにも偏っている。 る気がした。 人間対人間の関係としてはほとんど伝えられて 生 P れる 現 実

く合掌し、 田 なけなしの中から食物を供してくれる人々の心に、自分も何かお返しを 舎で僧を経験 した時、経もろくにあげられない外国 人の私にうやうやし

ボジアのことも、日本の過去の戦争も、同じところに流れ込んでくるのを感じた。 くことで、伝えることで、心のお返しをしようと思った。そう思い至った時、カン したいと思った。自分に出来ることをしよう。出来ることは書くことしかない。書

に導かれるままに、続けていきたい。 来大きなところが本格的にやってくれるための、そのささやかな橋渡しになればと ないのは情けないと思う。日本の文化の責任を誰かが果たさなくてはならない。将 日本はこれだけ物質的技術には優れているのに、アジアをまともに伝える雑誌一つ いうつもりで、何とか続けている。苦しい時、何かが私を励ましてくれる。その声 そんなことで今、「東南アジア通信」(注ー)という雑誌をさせていただいている。 (作家、編集者 東京都世田谷区在住

(注一) 東南アジア通信

2号「水の生活 〇ページ。これまでに十六号を発刊。号毎に様々なテーマで特 文化、社会を通して総合的に伝える。季刊・B5判カラー・九 の総合情報誌。等身大の生きた東南アジアの姿を政治、経済、 一九八七年六月にタイの首都バンコクで創刊された東南アジア 9号「タイの仏教」 8号「フィリピン/西洋の原罪」 7号「タイ・カンボジア国境の十年」

12号「内陸の国ラオス」 11号「タイの華僑」

4号「タイの学校

13号「知られざるビルマ辺境」

— 21 —

女の 統 系統が違い、 を跡継ぎに は 私 子が八人も続けて生まれ、 + は台湾の新竹というところで、 何 種類 しないので、 あり、 普段はとても仲が良いのですが、 それぞれの言葉も八つの方言に大きく分 両親はどうしても男の子が欲しかっ やっとその後男の子が二人生まれました。 客ッカ (注2) こと言葉に関してだけは家の中でも の家に生まれました。 かれ たからです。 ます。 私を筆頭 祖 客家は女 客家の系 母



子どもたちの結婚と民族の伝統の板挟みの中で

蔡 麗貞

文化を固く守り続ける民族なのです。現在母と一緒に暮らしている弟の奥さんも、 す。そのため家の者も、二つの客家語を使い分けながら二人と話したものです。な 決して譲ろうとしませんでした。話す時、お互いに自分の客家語しか使わ やはり母とは違う客家語を話しますが、とても仲良くやっています。 んと頑固なと思われるかも知れませんが、客家はこれほどまでに自分たちの伝統や ないので

結婚しました。その後、 客家以外の相手との結婚など考えたこともなかった私は、やはり客家である夫と 夫は卒業後もアメリカ各地の大学で教えました。 夫が留学することになり、一家四人でアメリカに渡りまし

0 ランティア活動の尊さや大切さを知り、将来もずっと続けようと決心しました。 の支えになったのは、地域のボランティア活動への参加でした。夫の大学の留 参加し、 何 お世話を初め、病院や老人ホームでのアイロンがけや食事の手伝いなどに積極的 も分からない、そして友人もいない異国の地で、 同時にアメリカ事情などを教わりました。次第に友人も増えて、 苦しい時や淋しい時、 私はボ 私 の心

主人が日本大学で教えることになり、一九八○年に初めて来日しました。

慣や風習に疎く、 ちらかが た日本の の多いことと、 日本人なら問題はなかったのでしょうが、二人とも外国人なので日本の習 知識と実際は随分と違うことも多く、 日本の習慣に慣れるまで何かと恥をかいたものでした。 家の狭いことには驚きましたし、 大変な苦労をしました。 言葉は何とか分かっても、

MRAの会合に参加するようになりました。 に到達することはできない教えだと思いました。でもMRAの人たちがとても優し で受けた印象は、MRAとはとても厳しい団体だなあというもので、 るかということは特に説明しませんでしたが、「革命の道」というMRAの本を読 介され ii してくれ じマンションに住んでいた日本人と結婚したスペイン人の女性からM 会合に参加するようになりました。彼女はMRAがどのような団 るので、 日本に来たばかりで友人もまだいなかった私は、 自分には絶対 誘われ R 体であ ば

| 六年に私たちは日本に帰化しました。理由は日本に永住しようと決めたからで 客家はどこに住んでも客家なので帰化することに抵抗はありませんでした。そ 地に住んで色々な人と会うと国籍に対するこだわりは 自分たちが客家に帰属するという意識は片時も忘れることは 自 然に

ことは決してできないと何回も娘に言いました。 ことになるなどということは夢にも思っていなかったからです。この結婚を認 かされ 九年に娘は結婚することになったのですが、相手がユダヤ系米国人ということ 私は大変なショックを受けました。娘がまさか客家以外の人と結婚する

という気になりました。 は客家がい これまでの教育は間違っていた」と娘は手紙に書いてきました。それでも結婚相手 だ。もしこの人との結婚をそれでも許さないと言うのなら、 として奨学金を貰って大学に行けるように自腹を切ってまで世話している立派な人 、お母さんが自分で探してくれ」と娘に言われ、返す言葉がありませんでした。 めてきた時、私は結婚を許しました。 すると、「自分が結婚しようと考えている相手は青少年問題に取り組んでいる弁護 に流流 ボランティアで陸上チームのコーチをしており、貧しい青年たちが陸上 かに少しづつ心に変化が起きてくるのを感じました。再び娘が電話で許しを そしてその時初めてMRAの静かな時間というものを本気で試 n いと私が言うと、「この広いニューヨークでどうやって客家を見つけるの ている客家の血がどうしても許してくれないのです。私は何 何回 も何回も自分の本当の心の声を聞こうとしているうち お母さんの私 してみよう カ月も悩み に対 する

ない部分も残っていたのでした。 か カ月後、娘たちはスペインで結婚式を挙げ、私たちもスペインへ飛びました。 確か に娘の幸せを考えて結婚は許したのですが、心のどこかに許しきれて

再び強 しょう。幸い 私 :は心臓マヒで死んでしまう」と言ったことがあるので、直接言いにくかったので たのですが、 せめて息子だけは客家とは言わずとも、せめて東洋人と結婚してほしいと祈って か悲しいのか分からないままずっと泣きっ放しでした。 いショックを受けました。私は以前息子に、「もしお前が白人と結婚するなら にも娘の時よりも早く立ち直れたのですが、息子の結婚式では、嬉し 娘からの電話で、 息子が白人と結婚するかもしれないと聞 かされ

なけ 静 気持になるどころか、まるで心臓が口から飛び出してしまうようなショックを受け と思っていたのですが、息子から孫ができるという連絡を受けた時、 !かな時間を持ち心の声を聞き、当人たちの気持、そして幸せを何よりも大切にし 子どもたちを外国人と結婚させてしまっては先祖に申し訳ないと考えていた私が、 ればならないと考えを変えられたのだから、これで自分は完全にチェンジした 嬉し

てしまったのでした。何をしていいのやらしばらくわからなくなる程のパニック状 思 に陥ってしまったのです。私のチェンジは完全ではなかったということをつくづ い知らされました。本来ならばすぐに確認の電話をするはずなのに、一週間以

上も何もできず心を痛め、夜も寝ずに悩みました。

たからでしょう。 す。まだまだ自分の中に子供たちの結婚に対するこだわりのようなものが残ってい 過ぎる位分かっていたのですが、出産に付き添う勇気がどうしても出なかったので 後に誕生の連絡を受けました。私は本当はアメリカに残るべきだということは充分 翌年の九月の二十六日に孫が生まれました。私と主人は夏の休暇をアメリカで過 て前日の二十五日、 つまり生まれる前日にアメリカを発ったので、 帰国六時

思っています。私が悩んでいた時に励まして下さったMRAの友人の方々にこの場 た違和感のようなものが、初孫の顔を見た途端にスッと消え去り、心に平安を感じ 翌年春、息子夫婦が孫を連れて日本に来ました。空港で待っている間 娘に からも静かな時間を持ち、心の声を聞き、日々チェンジしていきたいと もいずれ から三週間 子供ができることでしょう。その時には本当に心から愛せるよ の日々を家族水いらずで本当に楽しく過ごすことができま に感じてい

をお借りして改めて感謝申し上げます。現在、習志野市の国際交流協会や教会の婦 らも続けていきたいと願っています。 の決心を忘れることなく、 人部に所属して、在日外国人や留学生のお世話をさせて頂いてますが、アメリカで そして様々な方々との出逢いを大切にしながら、これか (主婦 千葉県習志野市在住

(注2) 客家

北方の漢民族が、歴代の中原一帯の戦乱を避けて集団で南下した人々。世界中に四千五百万人いるといわれる。団結心が強く、進取の気風に富む。文化、伝統保持と教育を重んじ、政治への進取の気風に富む。文化、伝統保持と教育を重んじ、政治への進取の気風に富む。文化、伝統保持と教育を重んじ、政治への進取の気風に富い、歴代の中原一帯の戦乱を避けて集団で南下しれ方の漢民族が、歴代の中原一帯の戦乱を避けて集団で南下しれ方の漢民族が、歴代の中原一帯の戦乱を避けて集団で南下しれ方の漢民族が、歴代の中原一帯の戦乱を避けて集団で南下し

平成 忘れることが出来ません。 出会いました。 たまたまプシュパさんを訪ねて来日されていたお母さんのスンドランバ 一年の秋、私は神戸で開かれた第十三回MRA関西秋期大会に参加しました。 マレーシアの高校の先生で千葉大学に留学中だったプシュパ その時、 皆 の前でお母さんが話されたことに私は強く心を打た ナダ ルさ



私たちの世代が 伝えなければならないこと

宮崎美江子

と、彼女は静かにこう言われました。 になり、彼女の傍らに駆け寄り、「ごめんなさい」と、心からお詫びしました。 が痛くなり、 うしても日本人が好きになれなかったと、正直に淡々と話されました。それから五 焼き付き、日本人に対して心を閉ざしてしまわれたそうです。それ以来長い間 てやっと日本に来る気になったと言われました。 十年近く経ち、プシュパさんが留学生として日本で勉強するようになり、勧めら 乱暴したり、 第二次世界大戦の頃、お母さんは六歳の幼女でした。侵攻してきた日本の 残虐な行為をしたりするのを目の当たりにして、その恐ろしさが 涙が溢れてきました。そして、どうしても謝らずにはいられない 私はその言葉を聞いてい る内 胸

「それはもう済んだことです。日本人皆が悪いのではなく、 のでしょう」 命令してさせた人が悪

と微笑まれた時、 私は恥ずかしさと申し訳なさで胸が一杯になりました。

襲では戦災に遭い、苦しいことが続いていました。それで自分たちは、 戦 0 頃、 ました。 私は二歳と四歳の幼児二人と赤ん坊を抱え、食物もミルクも少なく、 空襲警報 の度、 寒い夜でも防空壕に入り、とうとう神 戦争の被害

者だと思い込んでいました。

を閉ざすほど、辛い恐ろしいことがあったのだと知りました。私たち日本人が、心 から詫びなければならないことがあることが分かりました。 戦場になった南方の国々や大陸では、幼い子供たちが、人間不信になり心

なければいけないと思いました。 私たちは、戦争の非情さ、酷さを、 戦争を知らない世代に、はっきり正しく伝え

ある週刊誌の表紙で、かわいい幼い女の子が人形の手を握りしめ、悲しそうな顔で 一人で歩いている写真を見た時、私はハッとしました。 湾岸戦争が始まって、生々しいニュースが連日伝わってきていた頃のことです。

閉ざしてしまっているのではないでしょうか。それは子供たちの将来のために、 な家庭が壊され、 ーバーラップして、胸に突き刺さるような痛みを感じました。湾岸戦争でも、平和 しく不幸なことだと思いました。 泣きじゃくっているようなその顔と、五十年前のスンドランバルさんの顔とがオ 幼い子が恐ろしい悲惨な出来事に、人間不信に追い込まれ、

湾岸戦争が終わった時、そうした子供たちに、一日も早く笑顔が戻り、愛に深く

私は心から感謝しています。 を気付かせて下さったスンドランバルさんと、 包まれた温かな日々が来ることを祈らずにいられませんでした。そして、私にそれ その場を与えて下さったMRAに、

に育つためにも、私たちの世代の役目は大きいと思います。 す。二十一世紀を担う今の子供たちが、国境を越えて温かく思いやれる心豊かな人 人たちと、お互いに戦争の痛みや非情さを心を開いて語り合う場が欲しいと思 世界の平和のために、私たち一人ひとりが、先ず周りのアジアの国々の同世代の

強させて頂きたいと願っております。 今、何をなすべきか、静かに心の声を聞きながら、MRAの場で、これからも勉 (主婦 兵庫県神戸市在住)

紹 R っでした。 会いしました。 介で Aの創始者フランク・ブックマ 私 0 経 歴は多岐多様 アメリカのミシガン州マキノ島にあったMRAセンター その恥 ずか しいことをしていた私の目を初めて開いて下さったのが、 にわたっていますが、 博士でした。 今思えばどれも 戦 後間 もなく、

に招 相馬

かれ、 雪香さん

博 士に お

恥ずかしいことば

M



あなたは「自由」ということを 知っていますか?

加藤シヅエ

は特別中の特別のことでした。 その当時は日本も貧乏で外貨も手に入りませんし、 外国へ出かけるなどというの

まで、参政権すら与えられず抑圧されていた日本人の女性が、参政権を得たとたん 戦 「後、婦人代議士第一期生として、三十九名の女性代議士が誕生しました。それ 衆議院議員でございますと三十九人も白亜の殿堂に登ってきました。

か 語にも通じているんだから、アメリカに招かれるのは当然のことくらいに思って出 をしてしまうんです。ことに議員を長い間やっているとさらに思い違いをすること ていました。あの赤い絨毯を踏んでしまうと、誰でも自分が偉くなったと思い違 が多く、私などそのいい例でした。それに私は欧米もたびたび旅行しているし、 けました。 その一人であった私は、自分はもしかしたらよっぽど偉い人間かしらなどと考え

界の情勢を知るい 玉 の、真っ黒いのまで沢山の人々が世界中から集まって連日会議を開いていました。 際会議 と聞かされていたので、さぞかし色々な国々の代表が参加していて、 い機会と思って行ってみると、 たしかに白いのから黄色いの、

どんなにか珍しく素晴らしい話が聞けるのか、そして沢山の知識を吸収してより利 になれるのかとワクワクしていたのです。

郎 などということばかり考えていました。 すところなんでしょうね。二言目にはチェンジ、チェンジ。 ごとしてましたなんていうつまらない話ばかりして、それをまた聞いている人も聞 るのかと思いました。立派な方々がわざわざ海を渡ってここまで来て、家内に隠し 分がどんなにつまらない人間であったかやっと分かっただとか、一体何を言ってい んでしょう。あの言葉を聞くとゾッとしますね」と話して、一刻も早く逃げ出そう ふうに不正直でこんなウソをついたとか、家内にこんな秘密を持っていたとか、 ことは皆似たり寄ったりでつまらない話ばかりしているんです。自分はいつどんな ている人だし、こんな会議を主催する人もどうかしていると思いました。星島 ところがおとなしく聞いていると、顔の色こそ違え出て来る人出て来る人、言う (注3) 先生ご夫妻と一緒でしたので、ご夫人とよく、「この会議って一体何を話 一体チェンジって何な 自

ど持っていた聖書の裏表紙に何か記念になる言葉を書いて下さいとお願いしたら、 そうしているうちにブックマン博士に直接お会いする機会があったので、

りなさい」と書いてありました。 それでは暫く預かっておきましょうと言われました。数日後に戻ってきた聖書 あなたは自由ということを知っていますか? この聖書をよく読んで自由の身にな

でした。 がありません。博士の言われる自由という言葉の意味がどうしても理解できません いました。ましてや国会議員の私が、自分を自由の身でないなどと思っているわけ 日本の女性はもう自由の身になったというのに人を馬鹿にするのも程があると思

傲慢な女は何かに心を縛られていて自由でないと考えられてその言葉を書いて下さ る素晴らしい、そして恐ろしい目を持っていらっしゃいました。博士は、この大変 たらしいのです。 ブックマン博士は普段はとぼけたような顔をした方ですが、他人の心の中が見え

0 が残され、私もその中の一人でした。トレーニングを施せば、将来ちょっとは社会 さて、国際会議も終わりほとんどの参加者は帰ったのですが、ごく少数の人たち お役に立てるだろうという人間が残されたと聞きました。

マキノ島の教会で静かな会合が開かれました。そこにフランスのイレーヌ

. 0 -

絶対 でしょうか。 うな思いがしたそうです。祖国を蹂 躪され息子を目の前で拷問されどうして許せる う立派な経歴を持った方で、社会運動の指導者として大変な雄弁家でもありました。 (注4)さんというご婦人がいたのですが、その方はフランス社会党の婦人部長とい 目にあ に許せない存在でした。ドイツのことを考えると、心が憎しみで燃え上がるよ リがヒトラーに占領されていた時に、息子がナチスに拷問を受けたり色々とひ いながら耐えて来た彼女にとって、ドイツという国、そしてドイツ人は

たというとても気の強い女性です。 ろなどとこんなことを言うのがMRAならば自分はもう帰る」と言って帰ろうとし ためにどんなにかひどい目にあったのかも知りもしないくせに、いまさら握手をし らばフランスはドイツと握手しなければならない」と言うと、「自分たちがドイツの ブックマン博士が彼女に、「これからのヨーロッパ、そして世界の平和を求 めるな

た。このような草の根のチェンジというものが、その後の独仏間の和解につながっ ブックマン博士の言葉がどうしても心を離れず、とうとうドイツ人を許したのでし ていき、今日のヨーロッパの繁栄の基礎としてあるのです。 か ドイツを抜きにしてヨーロッパの再建を考えることができるのか という

は、 教えられた。夫に対して大変傲慢な態度を取っていたことを反省し夫に謝ってから 付き、嫉みや憎しみの感情を抱いていたことを妻に謝罪した」と話すと、 なかったが、よく考えてみたら妻は本当に正しい仕事をしているのだという事に気 人だったというご主人は、「女房が生意気で、いつも指導者ぶっているのが気に入ら ローさんが、「夫は凡人でただ黙々と働くしか能のないつまらない男だと考えていた。 かし、MRAを知ってから、人をそんなふうに見下すのは間違いだということを そのイレーヌ・ローご夫妻が演壇に立って、静かに語り始めました。元海軍の軍 本当に信頼、 尊敬しあえるような夫婦になれた」と応えました。

りました 私は、その心からほとばしるようなお話を聞いて初めて、「心の声」というものを

は 真っすぐな道を歩いて、 る艱難辛苦をくぐり抜けて一生懸命ここまでやってきて、二人の息子も立派に育 .キチンとやっている。そんな自分のどこが悪いのか」と言われます。私もあらゆ いがいの人は、「自分は盗みを働いたこともないし、殺人を犯したわけでもない。 加藤勘十(注5)という労働運動の指導者と結婚してからは、夫も大切に 税金もちゃんと払って暮らしている。家庭でも自分の仕事

したつもりでしたが、家庭内に困った問題を抱えていたんです。

た娘 の母たるや、それはこの私ですが、傲慢な女だったんです。 それは 父が 私の義理の娘、つまり加藤の先妻の娘のことでした。十三才で母と死別し 新しい母を迎えるというので大変に喜んでいたわけです。

す。 言われなくても愛情が湧き出す、それが子供を育て愛する母性愛というものなんで 性愛というものは本能的な愛情であって、自分で生んだ子供であれば他人から

て生んだ子供と同じように愛情を注ぐなんてことはできないのが当たり前なんです。 そういうプロセスを経ないでいきなり母という立場に立っても自分のお ではどうしたらよいのか。 腹を痛め

注ぐのは無理だ」などと勝手に考えて、それが絶対に正しいと思っていたんです。 に果たせばいいのではないか。でも本能的な愛情を生みの子と同じようにその娘に 私は、「母という立場で、教育や躾とか色々面倒を見て、母親としての責任を充分

それで迷惑したのが娘です。

新しいお母さんがどんなにか可愛がってくれるのかと期待していたら、少しも可

かず、 愛がってくれず、躾のことばかり話している困ったお母さんだったんです。 母 さん この娘は本当に野放しで育ってしまったから、 の方は自分が偉いつもりですから、 娘のそんな気持にはちっとも気 あれもこれも教え込まなけれ

そん 不幸な事態になったのは次のような経緯からでした。 な親子の気持のずれが段々と大きくなり、とうとう娘が家を出るという大変

のは愛情でした。私はその愛情を注がなかった女です。

ばなんてことばかり考えていたのですが、やはり十三才かそこらの娘の求めていた

に民 信 私の家に来て、「マッカーサー司令部は、戦争に反対して軍部と闘い多大な犠 たあなたのご主人加藤勘十さんを非公式な顧問として迎え、 かなかった日本に、本当に自主的な婦人組織をどうやって作るかということにつ いたい。また、 ちょうどマッカーサー司令部が東京にできた頃、司令部のジープに乗った将校が 主主義になるために労働問題をどうするかということについて色々とご意見を を聞きたい」と言いました。 あなたも戦争に絶対反対した人だから、国防婦人会と愛国 日本がこれ から本当 牲を払

は有り難いことだと、

それに少しばかり英語も話せたもので、

偉そうな顔を

— 40 **—**

Ш これからは国際的にならなくてはいけない時代になったんだなと考えたらしく、 娘 して司令部に出入りして、お役に立っているつもりでやってました。 そんなわけで、ジープが家に来るとか制服のアメリカ軍人が来るということが、 いた若いGIの一人と国際交際を始めたというわけです。 の目にはとてつもなく大変なことに映ったらしいのです。年端もいかない娘でも、

名前をここに書きなさい。こんなことは二度と許さないからこの家には来るな!」 樣 と手紙を書きました。そのGIは可愛想に青森あたりに飛ばされたそうです。 誘惑しに来たのでえらく迷惑している。あんなGIはどこか遠くへ飛ばしてくれ」 「あなたは親に断らないでなぜ家にズカズカと上がったのか。あなたの名前と上司の でもないことで、私はもうかんかんに怒りまして、娘を叱り飛ばし、そのGIにも 私は本当にびっくりしました。良家の娘が親の知らない男と交際するなんてとん かなと思って覗いてみると、娘がGIを部屋に招き入れていたんです。 厳しい態度でそのGIを追い出し、すぐ上司に「あなたのところのGIが娘を る晩、 、私が遅く帰宅すると、応接間の灯りがこうこうとついていました。 お客

娘 ましたが、自分は母親としてやるべきことをやったんで、やっぱり家を出ていった でそんな他人に聞かれたらまずいような話があるのは非常に困ったことだとは思い と思ったのか、ついに家を出てしまったのです。私は国会議員として、 は の方が悪いんだと考えていました。 すっかり心を痛めてしまい、こんな厳しい母と一緒にいたのではとてもたまらん 私 は胸がスーッとして、母親として立派にやったなんて思っていたんですが、娘 自分の家庭

げ 心の中から出て来る声と自分が頭の中で色々とでっち上げた知恵によって作り上 た声とは全然別のものだ」と気付きました。 それがマキノ島で、「なるほどこれが人の本当の心の中から出て来る声なの

たのです。 娘がそのそばにいられないような厳しい母親であったことに遅まきながら気が付

などと言われたのだったら、私はどこまでも反抗したでしょう。 しこれが、どこかの誰かから頭ごなしに「あんたのやったことは間違っている」

何 わる。そうすることによって心のあらゆる束縛から自由になれる」と色々な方が言 か改めなければならないことがあれば即座にそれを改めて、気持の上で生まれ ところがマキノ島では、「良心の声を聞けば、本当に素直になれる。そしてもし、

われました。

今日に至るまで取っておりました。これは大変不遜なことであり、大きな間違いで 題を抱え、 あったことに気付きましたから私はこれをチェンジします」と言いました。 そこで私も教会の演壇に立ち、「実は私も故国に残した家族との間にこのような問 ブックマン博士が言われた「自由になる道」とはこういうことなのかと思いました。 あれほど嫌だった、身震いするほど嫌だったチェンジをとうとうしてしまったの 自分の至らなさには少しも気付かず、相手だけが悪いんだという立

様の前で披瀝する、それは大きな勇気のいることであり、同時に恥ずかしいことで た。心を改めて新しい人間として立ち直りたいと思います」と、本当の心の声を人 もありました。涙がぽろぽろと出てきたんです。 偉そうな顔をしていた婦人議員ともあろうものが、「私は本当に至らない人間 でし

そうしたら、 分の非を改めたものだと思って下さったのか、私が涙をこぼすと同時に泣いて下 そこにいた皆さんも、あの傲慢な女性がよくあそこまでしおら

キノ島の小さな教会で、私は過去の私にお葬式を出しました。 られが私の人生のお葬式の日だったんです。

曜 が落ちるとでも言うのでしょうか。心の中の間違いを勇気をもって正直に認めると いうことは、自分は別な人間になるという決意をしたということです。そのような 間を持てるのがMRAの本当の真価なんです。 このような体験を色々な方が、世界中でやっておられます。仏教で言えば目の鱗

対無私」、「絶対愛」という四つの絶対道徳標準というものを掲げて示しています。 心情に到達するにはどうしたらいいかということを「絶対正直」、「絶対純潔」、「絶 M RA は、 ああしなさい、こうしなさいなどとは言いません。ただ、そのような

この「絶対」が厄介なんですね。

まで回して初めて明かりがつくでしょう。人間の心も八分じゃ駄目、絶対は絶対で っておられます。「電球をつける時、スイッチを八分通り回してつきますか? 最後 この絶対が付いていなければと言う人がよくいますが、ブックマン博士はこう言 少しばかり正直で少しばかり嘘をつくというんじゃ駄目なんです」。

した値打ちがなくなってしまうんです。 H ばいいんです。ただ、絶対を否定してしまうと、せっかくそこまでチャレンジ 本語で道徳というと随分難しく聞こえますが、そのあたりは自分で上手に解釈

四つの基準とは神様であり仏様なんです。

直 除してから一日をスタートするんです。そういう生き方をすると日々の出来事に素 ものがとても参考になります。朝の十五分間もあればいいんです。そうして心 た名言が書いてあります。真理を追求して止まなかった人々の考え方、 りますので、それを必ず読むことにしています。その一冊である「A New Day」と う本には、旧約聖書や新約聖書の言葉、あるいは宗教家や労働指導者たちの残し に感動できるようになります。 私は毎朝その基準に心を照らしながら、心の糧になるような本を三冊用意してあ 生涯という

る生き方をさせて頂いております。皆様もどうぞお試し下さい。 温 か かく心を配るということがMRAの値打ちなんで、MRAというのは 血 を通わすということです。 私はMRAで心をきれいにして毎日意義のあ 心 Z

(日本家族計画連盟会長 東京都目黒区在住)

(注3) 星島二郎

韓正常化の礎となった。又、統治時代に日本に持ち込まれた文 院外務委員長ら韓国側代表と連日会議を行ない、これが後の日 ヅエ氏らと日本の朝鮮統治時代の圧政を謝罪した上で、尹民議 ぐ記録を作った。その間、商工相、国務相、 当選を果たし、「憲政の神様」尾崎行雄の二十五回連続当選に次 範を示した。昭和五十五年、九十二歳で没す。 化財返還運動にも携わり、自ら李王朝所有の狛犬等を返還して フィリピンのバギオ市で開かれたMRA大会で、 フランシスコ講和条約の全権委員などを務めた。昭和三十二年、 東京に法律事務所を開設。大正九年、三十二才で岡山二区から 秘書を務め、政治を学ぶ。後に弁護士となり、片山哲元首相と 昭和三十八年の第三十回総選挙まで十七回の連続 岡山県生まれ。東京帝国大学卒業後、犬養木堂の 衆議院議長、 同行の加藤シ サン

(注4) イレーヌ・ロー

独友好の回復に尽力し、後のEC設立の礎となった。マルセース九八年生まれ。第二次大戦中、反ナチ抵抗運動に加わり医状では、彼らに対する憎しみを謝罪した。その後、仏が出来るのか」と説得され、三日三晩寝ずに悩んだ末、ついにが出来るのか」と説得され、三日三晩寝ずに悩んだ末、ついにが出来るのか」と説得され、三日三晩寝ずに悩んだ末、ついにが出来るのか」と説得され、三日三晩寝ずに悩んだ末、ついにが出来るのか」と説得され、三日三晩寝ずに悩んだ末、ついにが出来るのか」と説得され、三日三晩寝ずに悩んだ末、ついにが出来るのか」と説得され、三日でいる。

(注5) 加藤勘十

八十六才にて没す。 道を譲る。翌年、勲一等瑞宝章を授けられる。昭和五十三年 たひとこまである。昭和四十四年、衆議院議員を辞し、後進に が堂を揺すった。戦後の日本と東南アジアの和解の礎が築かれ たんに会場は水を打ったように静まり、 を浴びながらも。新しい日本が目指そうとしている道義立国へ 親善使節団に加わって、台湾、フィリピン、タイ、ビルマを歴 二十七年、MRAの招待により渡米。昭和三十年、 行委員となる。昭和二十三年、 婚する。昭和二十年、 補し、全国最高点にて当選する。昭和十九年、石本シヅエと結 新聞社入社。昭和十一年、第十九回総選挙で東京五区より立候 明治二十五年、愛知県生まれ。日本大学法科中退後、東京毎日 の道』を割れ鐘のような声で訴え、 訪。マニラ市内の大学の講堂で、千数百人の聴衆の激しい野次 日本社会党結成に参加し、同時に中央執 芦田内閣の労働大臣就任。昭和 過去の行いを謝罪した。と 次の瞬間、万雷の拍手 MRA国際

=MRAとは=

世界が手を携えて共に生きる新しい時代を迎えるために、人種、宗 教、階級、体制の違いを越えた人類共涌の価値基準(ものさし)が求 められています。MRA (Moral Re-Armament、道徳再武装)は、第二 次大戦を目前にした昭和13年 (1938年) に、軍拡競争に明け暮れる世 界を「軍備ではなく道義と精神の力によって再武装」することが世界 平和の道である、とするフランク・ブックマン博士の警告から始まり ました。これはワシントンの軍縮会議を傍聴した博士の「どんな立派 な和平プランも、人の心や姿勢を変えない限り無意味である。対立す る相手や国を変えるには、先ず自分、そして自分の国が変わることで ある」という理念に基づいたものです。以後MRAは、あらゆる民族や 宗教や文化にも共通しているモラル(心)を基盤とした、相互信頼作 りや問題解決の橋渡しを世界的なスケールで進めてきました。今日の EC誕生の前提となったドイツとフランスの和解、黒人多数派と白人少 数派の和解によるジンバブエの無血独立、レバノンのキリスト教徒と イスラム教徒との対話、カンボジア、エルサルバドル等における紛争 当事者同十の対話の橋渡し等に貢献してきました。

日本においては、1977年より毎年、各国から代表を招いてMRA日本キャンペーンを開催しています。また、スイス、コーのMRA世界会議場マウンテンハウスで開かれるMRA世界大会(毎年7~8月)や、各国のMRA国際会議へ代表を派遣したり、イギリス、オーストラリア、インドなどのMRAセンターにMRA海外研修生を派遣し、国際事情や異文化への理解を深め、世界に貢献できるような日本人の養成に努めています。お問い合せは、社団法人国際MRA日本協会事務局(電話03-3821-3737)へどうぞ。



雲国際MRA日本協会

〒113 東京都文京区千駄木4-13-4 TEL:03(3821)3737 FAX:03(3821)6479

発行 平成5年1月31日

頒価 450円